



かけぬいっかし通信

～仲間とともに伸びる子 主体的に学ぶ子 いのち・人権を大切にする子～

<今月の巻頭言>

校長 松宮 孝明

「脚下照顧・・・」

～はきものをそろえると心もそろろう！～

脚下照顧ってという言葉、聞かれたことありますか？

「きゃっかしょうこ」と読みます。この言葉は、禅という修行の根本の教えで、「照らし顧みよ＝よく見よ」「脚下＝足元を」・・・「何をするにしても、まずは自分自身をよく見よ。何事も自分の足元をよく見てはじめよ。」ということだそうです。そこから、よく下の文章が紹介されます。

はきものを そろえると 心もそろう
心がそろうと はきものもそろう
ぬぐときに そろえておくと
はくときに 心がみだれない
だれかが みだしておいたら
だまって そろえておいてあげよう
そうすればきっと
世界中の 人の心も そろうでしょう



これは、長野県円福寺の住職であった藤本幸邦さんの詩です。福井県の永平寺にある「脚下照顧」の額をわかりやすく表現したものだそうです。

表面的な、見た目だけをそろえても、何もかわらない！心の中がしっかりしていれば、見た目はどうでもいいと思われませんか？

完全に一致しないまでも、私は関係があるのではないかと、つながっているんじゃないかと思うんです。笠縫東小は、本年度、コロナ禍で様々な困難な課題がありながらも、保護者や地域の方々のご理解とご協力を得て、安定した学校生活を続けてきました。これからも、子どもたちに下駄箱の上靴下靴をそろえよう、それがみんなの心をそろえ、落ち着いた学校生活を送れることにつながるんだよと声をかけていきます。

おうちでも、玄関の靴を、片付けるものは片付け、出しておくものはこういうようにそろえておくことにしよう、声をかけ合っただけだったらうれしいです。よろしくお願ひします。

4年生が焼き物体験！

「自分の願いを込めた土面を作ろう！」というテーマで



4年生が焼き物体験に挑戦しました。陶芸の森・次世代文化芸術センターの皆さんの協力を得て、まずは、土に慣れ親しむところから。講習を受けて、



いよいよ土面づくり。インタビューしてみると、「コロナが収まってくれますように」とか「家族が幸せに幸せますように」など、いろいろな願いを聞かせてくれました。

◇草津市就学援助費給付制度について◇

草津市では、小・中学校に在学するお子さんがおられるご家庭で、経済的な理由により就学に必要な経費の負担にお困りの保護者の方に、学用品費の一部や学校給食費等を給付する就学援助費給付制度を実施しています。

受給を希望される場合は、申請書に必要事項を記入し、学校まで提出してください。なお、受給要件に該当しない場合は認定できませんのでご承知ください。

申請書や制度の説明書につきましては、学校または草津市役所学校教育課（6階）でお渡ししますので、お問い合わせください。

草津市役所 学校教育課 TEL：561-2421

笠縫東小：こころの教育コーナー

持って生まれた個性をいかす

「親からどんな特徴をうけついだかよりも、その特徴を使いこなす方が大事！」

親から受け継いだ特徴のことを「遺伝」というね。アドラーは、何が親からの遺伝かは、あまり重要ではなく、遺伝したものをどう使うかの方が大切だといっているよ。遺伝したものを使うのはきみ自身。きみが、その特徴をどう生かすかが重要なんだ。うまくいかないことやできないことがあったときに、「遺伝だからしょうがない」と言い訳をしたり、親のせいにしたたりするのは間違っている。たとえ不利な特徴であっても、きみの考え方や使い方しだいで、いくらでもいい結果を出すことができる。背が低くてもバレーボールやバスケットボールで活躍する選手はいるし、体が弱くても、しっかり勉強してすばらしい研究をする人だっているよね。遺伝を「できない理由」にするのはやめよう。遺伝は親からのプレゼント。きみの生きる力にしよう。

（「超訳 こどもアドラーの言葉」 齋藤 孝 著より）